

# 西久保八幡通信

謹賀新年

謹んで新春の  
お慶びを申し上げます

# —子年の出来事—

平成八年（一九九六年）	一月十一日	橋本龍太郎内閣発足
五月三十一日	サッカーワールドカップ（十四年開催）日韓共催決定	
七月五日	世界初クローン羊誕生	
七月十二日	チャールズ皇太子離婚合意	
七月二十日	アトランタオリンピック開幕	
七月六日	プロ野球巨人軍逆転優勝（メークドラマ）	
十一月五日	米大統領ビル・クリントン再選	
十二月十七日	ペリー日本大使公邸人質事件発生	
昭和五九年（一九八四年）	米アップルコンピュータがマッキントッシュを発表	
二月二十二日	冒險家植村直己が消息不明	
二月十三日	福沢諭吉・新渡戸稻造・夏目漱石紙幣発行	
十一月一日	シンボリルドルフ無敗の三冠達成	
十一月十一日	米大統領ロナルド・レーガン再選	
昭和四十七年（一九七二年）	昭和四十七年	
一月二十四日	グアム島で元日本陸軍兵士横井庄一発見	
二月十九日	連合赤軍、あさま山荘事件	
四月十六日	川端康成が自殺	
六月十一日	田中角栄通産相（当時）が「日本列島改造論」発表	
七月七日	田中角栄が首相に首相に指名	
八月二十六日	ミュンヘンオリンピック開幕	
昭和三十五年（一九六〇年）	昭和三十五年	
四月	ダッコちゃん発売	
七月十九日	池田勇人内閣成立	
八月二十五日	ローマオリンピック開幕	
十二月二十七日	池田勇人首相、「所得倍増計画」を発表	
昭和二十三年（一九四八年）	昭和二十三年	
一月二十六日	帝銀事件	
五月十四日	イスラエル建国	
六月二十四日	ベルリン封鎖が始まる	
八月十三日	大韓民国建国	
九月九日	朝鮮民主主義人民共和国成立	
十月十二日	東京裁判結審	

## —子年生まれの著名人—

昭和四十七年	山口達也（TOKIO）・平井堅（歌手）・久保純子（元NHKアナウンサー）
新庄剛志（元プロ野球）・チャン・ドンゴン（俳優）・常盤貴子（俳優）	
高橋尚子（マラソン選手）・中居正広（SMAP）・中村獅童（歌舞伎）	
木村拓哉（SMAP）・寺島しのぶ（俳優）	
昭和三十五年	清水ミチコ（タレント）・皇太子徳仁親王殿下・コロッケ（タレント）
アイルトン・セナ（F1ドライバー）・山田邦子（タレント）	
浅野ゆう子（俳優）・野田聖子（政治家）・鈴木亜久里（F1オーナー）	
黒木瞳（俳優）・真田広之（俳優）	
昭和二十三年	森山良子（歌手）・里中満智子（漫画家）・毛利衛（宇宙飛行士）
赤川次郎（作家）・都はるみ（歌手）・木原光知子（元水泳選手）	
沢田研二（歌手）・前田美波里（俳優）・糸井重里（コピーライター）	
昭和十一年	市原悦子（俳優）・野際陽子（俳優）・長嶋茂雄（元プロ野球）
毒蝮三太夫（タレント）・横尾忠則（美術家）・福田康夫（第九十一代首相）	
北島三郎（歌手）・さいとう・たかを（漫画家）・里見浩太朗（俳優）	

## 一年間行事予定



平成二十年の当八幡神社年間行事は左記の通り予定しております。なお、八月上旬に予定してあります氏子各町会の祭礼行事につきましてはおつて日程の詳細をお知らせいたします。

二月三日	節分祭
二月十七日	祈年祭
六月三十日	夏越の大祓
八月上旬	祭礼行事
八月十三日	前日祭
八月十四日	中日祭
八月十五日	大祭式
八月二十三日	新嘗祭
十二月三十一日	年越の大祓

## 平成二十年の厄年

年齢は数え年です

前厄		本厄	後厄
男 性 の 厄 年	24才 昭和60年生 うし	25才 昭和59年生 ねずみ	26才 昭和58年生 いのしし
	41才 昭和43年生 さる	42才 昭和42年生 ひつじ	43才 昭和41年生 うま
	60才 昭和24年生 うし	61才 昭和23年生 ねずみ	62才 昭和22年生 いのしし
女 性 の 厄 年	18才 平成3年生 ひつじ	19才 平成2年生 うま	20才 昭和64年生 平成元年生 へび
	32才 昭和52年生 へび	33才 昭和51年生 たつ	34才 昭和50年生 うさぎ
	36才 昭和48年生 うし	37才 昭和47年生 ねずみ	38才 昭和46年生 いのしし

「厄」には、木のふしめの意味があり古来より人生の節目を『厄年』として忌み慎むならわしがあります。厄年とは、災難や障りが身に降りかかるやすい年のことです。厄年を迎えると、神さまの御加護をいただいて災厄が身に振りかからぬよう、神社にお参りして厄祓をします。

男性は、二十五才・四十二才・六十一才、女性は十九才・三十三才・三十七才が厄年にあたり、その前後を前厄・後厄といいます。中でも、男性の四十二才は「死に」、女性の三十三才は「散々」に通ずるという語呂あわせから、大厄といわれています。

また、古くから四十二才、六十一才という年齢は、社会における重要な年回りとされ、神事においても重要な立場に当たりました。そのため、厄年の「やく」とは、神祭りを行う神役の「役」のことであるともいわれています。その役を行うにあたつて神さまに失礼のないように、飲食や行為を慎み心身を清浄にするためにご祈祷を受けたのがはじまりであるとも考えられています。

厄年に当たる年は肉体的・社会的な節目でもありますので、あらかじめ心の準備をしてその一年を過ごしましょう。

お正月にはおせち料理を召し上がる方が多いと思いますが、なぜお正月におせち料理なのかご存じですか。

おせちは、漢字では「御節」と書き、暦上の節句のことを指しています。暦には五つの節句（一月七日の人日、三月三日の上巳、五月五日の端午、七月七日の七夕、九月九日の重陽）があり、この日に神様にお供えをした料理がおせち料理の始まりですが、現在では、お正月の料理だけをおせち料理と呼んでいます。

おせち料理は、その地域や家庭などによつて異なりますが、それぞれの料理には、家内安全、無病息災、子孫繁栄などの願いがこめられています。

おせち料理は、その地域や家庭などによつて異なりますが、それぞれの料理には、家内安全、無病息災、子孫繁栄などの願いがこめられています。

栗きんとん………金運・商売繁盛  
昆布巻………「よろこぶ」につながる  
数の子………子孫繁栄  
田作り………豊作祈願  
たたきごぼう………豊年豊作  
黒豆………無病息災

関東では、黒豆・数の子・田作り、関西では、黒豆・数の子・たたきごぼうを祝い肴・三つ肴といい、おせちの基本といわれています。



## お正月の豆知識

# 教育勅語

き上で心がけるべき徳目が簡潔に述べられています。

情報氾濫の現状

今年で「教育勅語」が廃止されて六十年が経ちます。明治天皇が当時文明開化の風潮から西洋化が進む中、我が國固有の道徳観・倫理観が軽視された教育の実情を憂い、我が国の教育の振興が第一と考え、明治二十三年十月三十日に済発されたものです。

この勅語には、日本人が祖先から受け継いできた豊かな感性と美德が表され、人が生きていくべきものであります。

## 教育ニ關スル勅語

私は、私達の祖先が、遠大な理想のもとに、道の教育を過去の遺物と考えず、ここから日本

は、文明開化時以上に憂慮しなければいけない状況をもたらしているといえるかもしれません。この教育勅語を読み取ることも大切の正しい道徳観・倫理観を読み取ることも大切なのではないでしょうか。

朕惟フニ我力皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我力臣民克忠ニ克孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我力國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重ジ國法ニ遵ビ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕力忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン斯ノ道ハ實ニ我力皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一二センコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

義國家の実現をめざして、日本の国をおはじめになつたものと信じます。そして、国民は忠孝両全の道を全うして、全国民が心を合わせて努力した結果、今日に至るまで、見事な成果をあげて参りましたことは、もとより日本のすぐれた国柄の賜物といわねばなりませんが、私は教育の根本もまた、道義立国の達成にあると信じます。

国民の皆さんは、子は親に孝養を尽くし、兄弟・姉妹は互いに力を合わせて助け合い、夫婦は仲睦まじく解け合い、友人は胸襟を開いて信じ合い、そして自分の言動を慎み、全ての人々に愛の手を差し伸べ、学問を怠らず、職業に専念し、知識を養い、人格を磨き、さらに進んで、社会公共のために貢献し、また、法律や、秩序を守ることは勿論のこと、非常事態の発生の場合は、真心を捧げて、國の平和と安全に奉仕しなければなりません。その努めであるばかりでなく、また、私達の祖先が、今日まで身をもつて示し残された伝統的美風を、さらにいつそう明らかにすることでもあります。

このような国民の歩むべき道は、祖先の教訓として、私達子孫の守らなければならないところでありますと共に、この教えは、昔も今も変わらぬ正しい道であり、また日本ばかりではなく、外国で行つても、間違ひのない道でありますから、私もまた国民の皆さんと共に、祖父の教えを胸に抱いて、立派な日本人となるよう、心から念願するものであります。

（国民道徳協会訳文）

発行者

八幡神社

平成二十年一月一日発行

東京都港区虎ノ門五十一十四  
〇三一三四四三六一二七六五  
<http://www.hachimanguji.or.jp>